



海禅寺新聞 第15号

8月29日(火)の早朝、携帯電話から耳慣れない警報が。ご存じの通り北朝鮮が発射したミサイルに、Jアラートが発動したものでした。Jアラートとは、総務省消防庁の全国瞬時警報システムのことです。国から発令された警報を、人工衛星を介して各自治体の無線を自動的に起動し、音声で各地住民に到達するものです。地震・津波など緊急を要する自然災害や、ミサイル攻撃・大規模テロなどの有事の際に使用されるとされますが、自然災害ならまだしも、今回のような軍事的有事で本当に使用される日が来ようとは・・・。

日本にとっては戦後以来、当たり前にあった「平和」。私たちは今この機会に、この平和を維持するためにはどうするべきなのか、それぞれに我がこととして考え、できる手だてをするべきなのかもしれません。そしてその上で、どうにもならない事態に対しては、今確かに息づいている自分の命に感謝しながら、神仏に、そしてご先祖に祈りをこらし、謙虚な心で日々を大切に生きることが大切なのだと思います。

生きる力 Vol.90 送付



「生きる力 vol.90」をご送付します。今回の特集は『伽藍を護持する 文化財を守る』

寺院の使命』です。寺とは第一にお檀家さん、地域の皆さんの為に存在しています。そしてもう一つには、お堂、仏像、仏具などの文化財を護ることを通じて、先人達が大切にしてきた、『祈りの文化』を継承する役割があるのだと心得ています。目に見える仏教文化財を護持することで、目に見えない価値を後世に伝えていくこと。社会が目まぐるしく変化する今だからこそ、そうした先人の『思い』を大切にし、時代に合った形で繋いでいくことも、寺としての使命だと考えています。

秋彼岸会 中日法要のご案内

恒例の秋彼岸会法要を海禅寺本堂にてお勤めいたします。どうぞご家族そろってお出かけください。(申込不要)
日程：平成29年9月23日(土)
時間：受付 午前10時～
法要 午前10時半～

※法要終了後は、皆さんで茶話会をいたしましょう。
※彼岸会中日法要の供養塔婆をご希望の方は、17日(日)夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。
(供養塔婆料 一基 3000円)
電話：0268-22-2972
Fax：0268-26-1146

予告 いのちのバトンタッチ

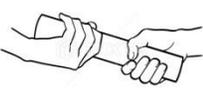
海禅寺サロン



アカデミー賞受賞映画「おくりびと」の原案となった「納棺夫日記」の著者、青木新門さんをお招きし、海禅寺本堂でご講演いただくことになりました。「いのちのバ

トンタッチ」というタイトルで、『生・老・病・死の全過程を安心して生きることが人生最高の幸せに繋がっていく』ことをお話されます。
また「安心して老いを迎えられる街づくり」に取り組む認定NPO法人「新田の風」に関連した内容も予定しています。どなたでも無料でご参加いただける行事です。皆さんで「生きること」そして「幸せ」について考えてみませんか？
青木新門さんの詩をご紹介します。

人は必ず死ぬのだから
いのちのバトンタッチがあるのです
死に臨んで先に往く人が
「ありがとう」と云えば
残る人が「ありがとう」と云える
そんなバトンタッチがあるのです
死から目をそむけている人は
見そこなうかもしれません
目と目で交わす一瞬の
いのちのバトンタッチがあるのです



日程：平成29年10月28日(土)
時間：午後2時～
料金：無料
会場：海禅寺 本堂
主催：認定NPO法人「新田の風」
協力：上田薬剤師会

※詳しい内容については、寺にチラシがございますので、ご希望の方はお申し出ください。
※ご出席の方は、お申込みのご連絡を寺までお願いいたします。



海禅寺数珠つなぎ

海禅寺にかかわる皆さんの声を、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

檀家総代 北原 忠彦さん 3人目

今回は年間を通じて境内整備をしてくださっている、お世話人の北原忠彦さんです。

『自然享受』

定年退職を迎えて後、縁あって海禅寺に隣接する芙蓉保育園のバス運転手をさせていただきました。当時はまだまだ身体が動きまわったので、非常に助かりました。同時にそれをきっかけに、海禅寺境内の植物の世話や草刈り、清掃をしています。仕事の内容が自分の趣味に合った植物と関わることで、バスの運転手を定年で終えた後も、境内整備はプロの植木屋さんのようにはいかなくても、楽しみながら続けさせてもらっています。



私は年齢のせいも、毎朝4時には目が覚めてしまいます。そして5時から犬の散歩をしながら、上田城趾公園のお堀の周り一周しています。朝の公園は意外にも賑やかで、ジョギングやウォーキングをする人、ラジオ体操をする人など様々です。毎日のことですので、顔なじみになる方もいて、これも楽しみの一つです。しかし中には突然会わなくなったと思うとお亡くなりになった知らせを聞くこともあります。余談ですが、若い方達はほとんどがスマホを持って歩いています。流行のゲームをしながらなのか、いずれにしても人と人が顔を合わせて交流する際、スマホは不要ですね。

帰宅後、朝食をすませて寺に向かいます。まず本堂に向かって合掌。「南無大師遍照金剛 南無興教大師」をお唱えし、「今、存命の喜びと感謝」を仏さまにお伝えして

います。その後、玄関のインターフォンを押して挨拶、それから作業開始です。その時々の状況で、草刈りをするとき、草取りをするとき、鉢の植え替えや剪定をすることもあります。こうして境内の植物と向き合う際、私が大切にしている言葉があります。それは「自然享受」です。大自然に逆らうのではなく、それを素直に取り入れて、自分の力、生きる糧にする。なかなかできないことですが、これをモットーに様々な作業をしています。こうして出来事や状況に反発することをやめ、受け入れていくことで、より仕事は楽しいものになります。また季節ごと、色々な草花に行き会えることも、大きな喜びの一つです。

私が特に好きなのは、春のしだれ桜、夏のサルスベリ、秋は境内中が色づく紅葉と香り高いキンモクセイ、そして冬のサザンカに終です。海禅寺の境内は本当に自然が豊かで、まるで植物園に来ているような感じさえ覚えます。また参道のソメイヨシノとアジサイの花も見事です。皆さんもぜひ折にふれて、お寺に足を運んでいただけたらと思います。

また草刈りをしていると、名もない花が咲いていることがあります。できる限り残したいと努力しますが、場所によっては刈らざるを得ないことも少なくありません。そうしたとき、同じ命だと思ふと忍びない気持ちになります。しかしそれもしようがないことですね。私たちは日々様々な生き物の命を頂いて生きています。深く考えだすときがありませんし、食わずに生きられる人はいません。そうして様々な関係性

の中で、私も野草も生きています。そんなことを考えながら、真言宗を開いた空海さん、智山派の礎を築いた覚鑿（カクバン）さんだったらどう教えてくださるのだろうかと思いを巡らし、時に自問自答しながら作業をしています。

私は来年80歳を迎えます。ここ日本でも様々な自然災害や不慮の事故で命を落とす方が少なくありません。そうした中で今の自分を思うと「生きていくだけでまるもうけ」と心から思うようになりました。徒然草の9段に「存命の喜び、日々に楽しまざらんや」という一文がありますが、正に今の心境がこれです。命の喜びを、毎日楽しみたいと思います。



【追記】毎年墓地からたくさんケヤキの落ち葉が出ます。私も菊育てに活用させてもらっています。また有機栽培にも活かされます。必要な方はお寺までお申し出ください。必要分をいただくことができます。

募集 境内作業しませんか？

「作業（さむ）」とは、仏教者が掃除や薪割り、畑仕事など寺院を維持するための労働全般を指す言葉です。それゆえに、僧侶が作業を行う際に着用する労働着を「作業衣（さむえ）」と言います。またこの境内を清掃する「作業（さむ）」は、宗派を問わず、仏道修行の大切な一つとして見なされています。自然豊かな境内を淡々と清掃する一時は、日頃の自分自身と日常を省みるよい時間になりました。そこで「作業」をする方を募集いたします。一回限りでも構いません。北原お世話人さんにご指導をいただきながら、ご一緒に境内を清めませんか？お申し出ください。



第33回 人形供養会



毎年11月の勤労感謝の日に行っている人形供養会は今年で33年目となります。檀徒の皆さまにおかれましても、ぜひご参加ください。供養の依頼をされる場合を除いて、特別なご志納は不要です。ご家族お誘い合わせてお越しいただき、お人形に託す思いや、物を大切にすることについて考える契機にいただければ幸いです。

※数に限りがありますが、供養蕎麦（お西）、甘酒（岡崎酒造）のお振る舞いがあります。

日程…平成29年11月23日（木）
時間…「受付」午前9時半～
「雅楽 奉納演奏」午前10時40分～
「人形供養 法要」午前11時～

大形供養のお申込みについて

供養料に決まりはありませんが、お人形一体あたり1000円を目安にお願いしております。数が多い場合は、ご無理のない範囲で志納下さい。なお、近年ぬいぐるみの供養依頼が大変増えております。ぬいぐるみはお焚き上げ出来ない素材のため、お魂抜き後の供養をした後に、しかるべき業者に引き取ってもらいます。そうした諸費用のため、大量にぬいぐるみをお持ちの方には、供養料とは別に負担金をお願いしております。おおよそ段ボールひとつで2000円程を目安にお考えください。また供養の事前受付もしております。お預かりしたお人形は寺で供養会当日まで大切に保管をさせていただきます。

編集後記



○先日のお施餓鬼法要前にも住職がお話いたしました。来年度、海禅寺主催で京都の総本山智積院を泊まりでお参りする計画をしております。お檀家さんを中心として、希望者を募ります。京都の風に触れながら、海禅寺にご縁のある皆さん同士の絆を深める絶好のチャンスです。詳細が決まりましたらまたお知らせいたしますので、ぜひ奮ってお申込みください。

○今年3月に開催した「やさしい仏教の勉強会」を12月～2月くらいに企画したいと思えます。学んでみたい内容リクエストがございましたら、寺までお寄せください。

○真田丸ブームは落ち着きましたが、ご朱印ブームに乗って、海禅寺のご朱印を求めて参拝する方が続いています。お聞きすると県内のみならず、関東・関西や北陸など、遠方からおおいになる方も少なくありません。中には小学生ほどのお子さん二人を連れたご夫婦が、「お願いします！」と一人一冊、合計四冊のご朱印帳をお出しになることも。見ていると、ご朱印が書き上げるのを待つ間、家族揃って本堂で手を合わせていました。宗教宗派は何であれ、私たちの力を超えた、目に見えない力に対して、真摯に手を合わせることは、私たち人間しかなさくない行いだと言われています。「祈り」行為は、人間の人間たる印の一つなのかもしれません。そしてその「祈り」の形は、家族の中で継承されるものです。ぜひ祈る尊さを、継承していきたいものですね。

発行元 海禅寺